



俺を信用してくれただ記念に、一緒に旅行に行かないか？

ここに居るのが自分でも不思議なの。誰にでもついていく女と思わないでね。

クレジットカードは、誰でも持てるわけではありません。

高校生でも持てるカード

高校生にとって一番身近なカードといえば、オレンジカードや図書カードのようなプリペイドカードでしょう。

プリペイド (prepaid) とは、「前払い」ということ。プリペイドカードは、「代金を前払いした」という証拠になるもので、カード自体に価値があります。ですから、現金と同じように、それを持っている人なら誰でも使え、なくしてしまえば使えなくなります。

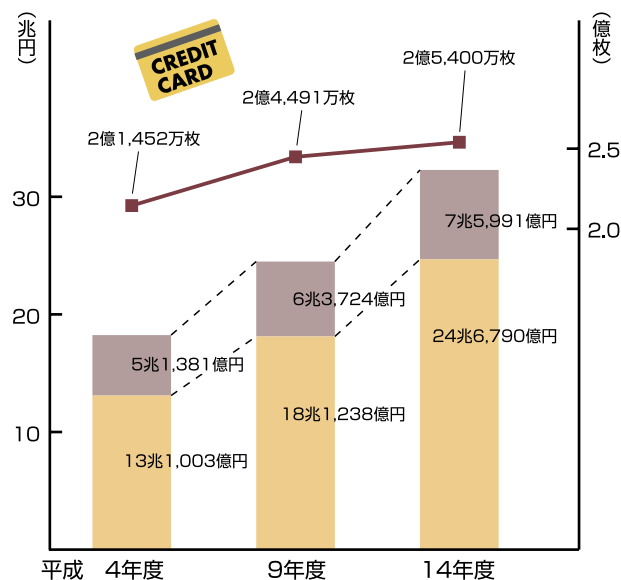
レンタルビデオ店などのメンバーズカード(会員証)は、会員であることを証明するためのID※カードで、高校生が会員になれるお店であれば発行してもらえます。

キャッシュカードは、銀行の普通預金の出し入れなどに使うカードで、高校生も持つことができます。

なお、デビットカードは、そういう種類のカードがあるわけではなく、利用代金が預金口座から即座に引落とされる、キャッシュカードの付帯機能のことです。

※ ID = identification の略で、身分証明のこと。

◆クレジットカードの発行枚数と信用供与額の推移



◎クレジットカード信用供与額 (左目盛り) ◎クレジットカード発行枚数 (右目盛り)
 ■ キャッシング —■—
 ■ ショッピング

※カード発行枚数は年度末。信用供与額は(社)日本クレジット産業協会の推計。資料:(社)日本クレジット産業協会「日本の消費者信用統計平成16年度版」

高校生には持てないカード

クレジットカードは、買いたい商品などを先に受取り、その代金を後で支払うことができるというカードです。つまり、プリペイドカードが「前払い」カードであるのに対して、クレジットカードは「後払い」カードです。

このようなことはふつう、近所の顔見知りのお店でもないかぎり、受付てもらえません。それなのに、クレジットカードを持っていれば、はじめて入ったお店

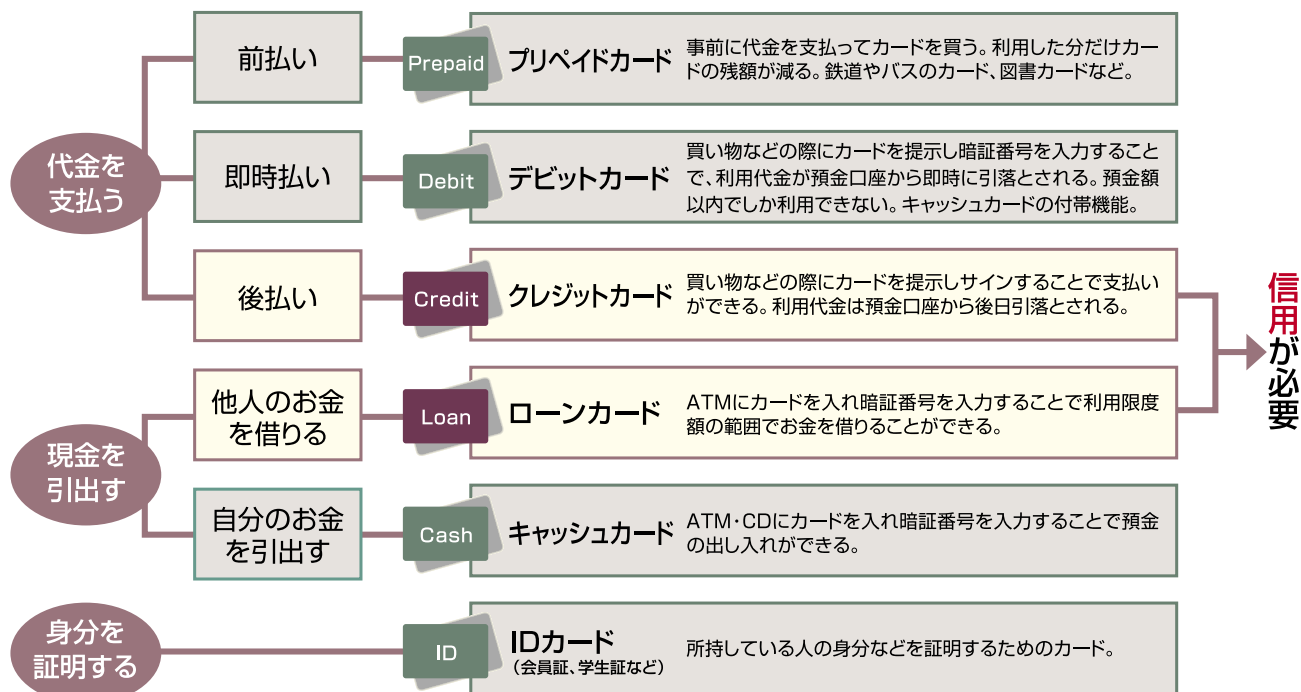
でも「後払い」ができるのです。どうしてそんなことができるのでしょうか。

それは、クレジットカードを持っている人に「信用」があるからです。ですから、クレジットカードは誰でも持てるわけではありません。

また、ローンカードは、お金を借りて後で返す（返済する）ためのカードです。お金を借りるためには「信用」がなければなりません。

高校生には、ふつうクレジットカードやローンカードを持てるだけの「信用」がありません。それはなぜでしょうか。次のページで詳しく説明します。

◆カードの機能別分類



(注)この図はカードを機能別に分類したものです。なお、実際には1枚のカードでキャッシュカードとデビットカード、キャッシュカードとクレジットカード、キャッシュカードとローンカードなど複数の機能をもつものがあります。また、総合口座のキャッシュカードには、万一の場合に備え、どうきしこし当座貸越機能(たとえば、公共料金の引落としに利用している普通預金の残高が不足しているときに、定期預金などを担保に自動的に貸出される)が付いています。

コラム ICカード

キャッシュカードやクレジットカードの多くは、カードの表面や裏面に磁気ストライプが貼られたカードで、文字数に換算すると最高72文字までの情報を磁気部分に記録できます。

一方、最近話題になっているICカードは、カードに埋め込まれたICチップで情報を記憶します。一般的なICカードの場合、厚さ0.72mmの中に記録できる文字数は500～8000。記憶容量が

ケタ違いに大きいので、いろいろな機能が入れられます。また、外部からの侵入に対してもとても強く、データを不正に変えたり、読みとったりすることが非常に難しい、安全性の高いカードです。



ローンとクレジットを利用するのに必要な「信用」とは。

ふつう信用といえば…

「あの人は待ち合わせの時間に絶対遅れない」、「アイツは秘密を絶対に漏らさない」…そういう友だちはあなたにとっては確かに“信用”できる人でしょう。

また、レンタルビデオ店の会員になってビデオを借りられるのは、そのお店があなたのことを約束どおりビデオを返してくれる人だと“信用”しているからです。

けれども、このパンフレットで説明する「信用」、つまりローンやクレジットを利用するために必要な「信用」は、私たちがふだん使っている“信用”という言葉の意味とはちょっと違います。

モノを借りるのとどう違う？

ビデオやCDなどのモノを借りる（レンタルする）のと、お金を借りるのとはどう違うかを考えてみましょう。

ビデオやCDを借りた場合は、あらかじめ使用料（レンタル料）を支払い、後日、借りたモノを返します。

一方、お金を借りた場合は、後日、使用料（利息）を支払い※、借りたお金を返します。

どちらも使用料を支払って、借りたものを返すのですから、違いはないようにみえます。でも、決定的な違いがあるのです。

それは、ビデオやCDは借りたモノをそのまま返せばいいのに対して、借りたお金は何らかの目的のために使って（消費して）なくなってしまうということです。

つまり、お金を借りた場合は、使用料（利息）だけでなく、借りたお金そのものについても、将来の収入から返済しなければならないのです。

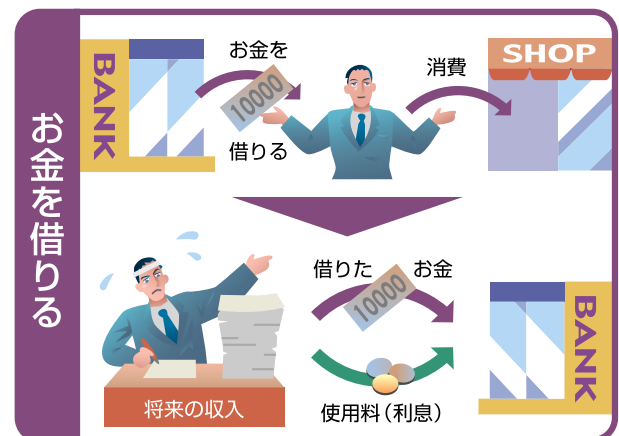
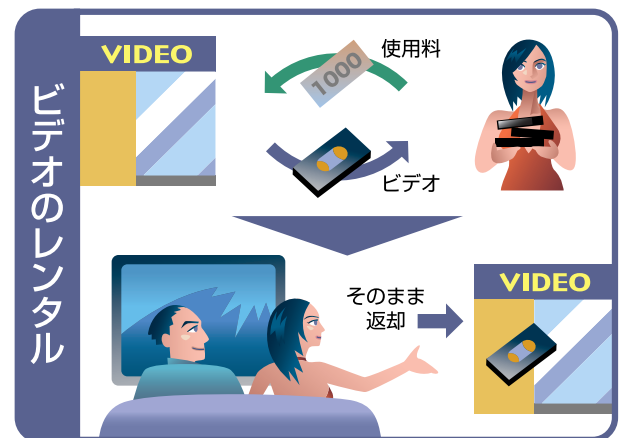
※利息は前払いの場合もあります。

信用は積み重ねでできる

絶対に忘れてはならないのは、「ローン（お金を借りて後で返済する）も、クレジット（商品などの代金を後で支払う）も、とても便利なものだけれど、他人からお金を借りていることに違いはなく、どちらも後で返済しなければならない」ということ。

これを、お金を貸す側の立場で考えてみましょう。誰でも共通に考えることは、貸したお金は返済してもらわなければ困るということ。借りる人には、約束どおり借りたお金を返済するというルールを守ってもらわなければなりません。ですから、「信用」とは、お金を借りる側からいえば、こうしたルールを守ることとってよいでしょう。

逆に、借りたお金を約束どおりにきちんと返すことを繰り返していくことは、より大きな「信用」を築き上げるにつながっていきます。



信用を表す4つのC

お金を借りる人の「信用」とは、具体的には次の「4つのC」で表されるといわれています。

(1) Character – 人格

借りたお金は後で必ず返済するという約束を正しく理解し、約束どおり返済する意志があるかどうか。

(2) Capacity – 支払能力

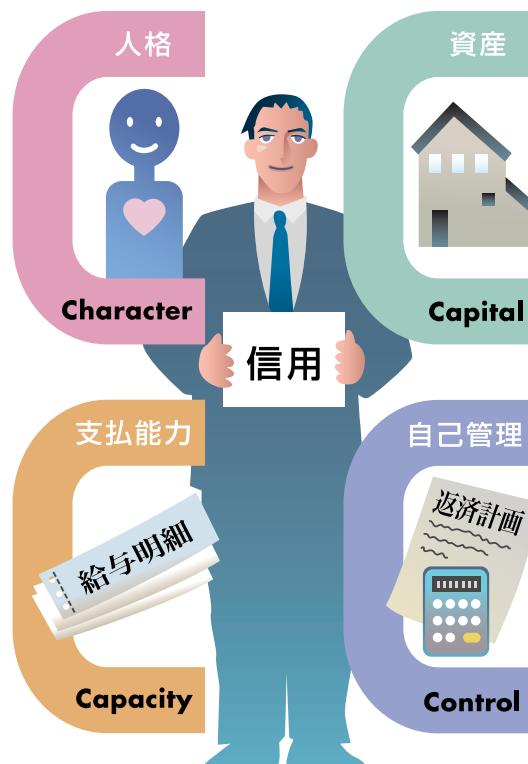
借りたお金をスムーズに返済していける支払能力があるかどうか。

(3) Capital – 資産(または Collateral – 担保)

病気や事故などにより返済が困難な状態におちいた場合でも、これをカバーする資産などがあるかどうか。担保があるかどうかをあげることもあります。

(4) Control – 自己管理

自分の返済能力の範囲内で計画的に利用し、計画的に返済することができるかどうか。

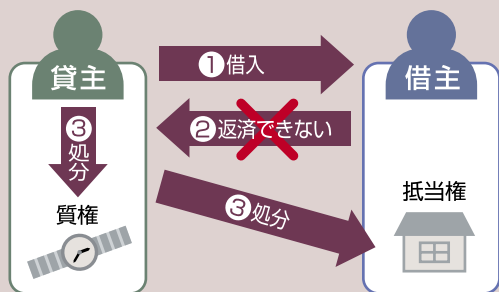


コラム 担保

担保とは、お金を返済できなくなった場合の備え(保証)として、借主が貸主に提供するもの。土地などの財産を担保にする物的担保と、他人の信用を担保にする人的担保があります。

物的担保は、「万一返済できなくなった場合には、担保にした財産を処分(売却など)して返済にあてることができる」権利で、担保にする財産を貸主に引き渡さない抵当権や、引き渡す質権などがあります。

◆物的担保



人的担保は、「万一返済できなくなった場合には、借主に代わって返済する」という約束で、この約束をした人を保証人といいます。保証人のなかでも、連帯保証人(→p15)になった場合には、借主とほぼ同等の責任を負うことになります。ローンやクレジットで保証人が求められる場合は、連帯保証人になることが多いですが、保証料を支払って保証会社の保証を利用する場合があります。

◆人的担保

